

経済産業省「デジタル時代の人材政策に関する検討会」
試験ワーキンググループ（第7回）：議事要旨

1) 企業における試験の活用状況について

経済産業省より、ヒアリングの状況について報告が行われ、以下のような討議が行われた。

- DX が注目される中で、ユーザー企業・ベンダー企業の双方に対し、スキルに対する意識の改革を促すような情報発信を行うとよいのではないか。
- ユーザー企業の中でも、業態や企業規模は様々であることに留意して、企業のニーズを整理するとよいのではないか。

2) 大学等における試験の活用状況について

経済産業省より、ヒアリングの状況について報告が行われ、以下のような討議が行われた。

- 学生においては、就職に役に立つ等の短期的なメリットに目が行きやすいが、昨今の社会環境の変化も踏まえ、情報処理技術者試験の受験の意義をより大きな視点から理解してもらえるようなアピールが重要ではないか。
- 大学や高校に対し、試験を授業で活用した事例集や活用ノウハウ集等、教員の立場から情報処理技術者試験を活用しやすくなるような情報を提供していくことが有効ではないか。

3) デジタルに関連する新たな領域の動向について

事務局より、ヒアリングの状況について報告が行われ、以下のような討議が行われた。

- 近年、認知能力のみではなく、人間関係の構築に必要な非認知能力にも注目が集まっている。
- 各国でデータのガバナンスが検討されつつある中で、データマネジメント能力の重要性が増しており、試験での取扱いも本格的に検討すべきテーマではないか。

4) 他資格等の最新動向について

事務局より、ヒアリングの状況について報告が行われ、内容に関する質疑応答が行われた。

5) 試験運営における DX について

事務局より、ヒアリングの状況について報告が行われ、以下のような討議が行われた。

- 近年の大規模言語モデルに関する研究の進展など、最新の技術動向も踏まえ、必要な教師データ量を現実的に用意可能な範囲に収めながら、精度よく自動採点を実現できる方法を考える必要があるのではないか。

以上